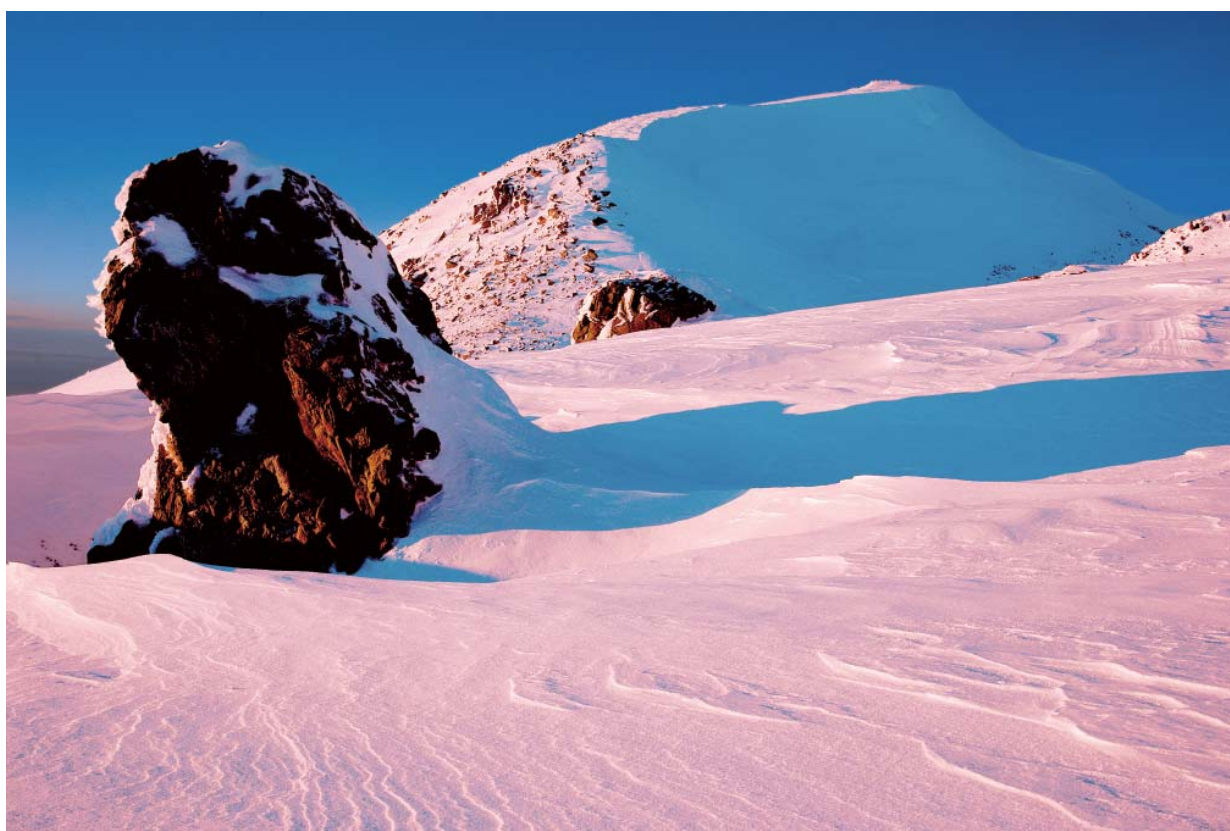


福井県医師会

だより

第630号 平成25年(2013)12月



夕照の大汝峰

福井市 石黒 信彦

表紙写真説明：夕照の大汝峰

福井市 石黒 信彦

白山は一面の雪になってしまった。日曜登山家の私にとって、今日は今シーズン最後の山登りだった。快晴の一日も終わりに近づき、刻々と夕日に染まりゆく雪原で感動しながら至福の一時を過ごした。明日は仕事、さあこれから急いで下山だ。

醫 縫 録

医師は政治に無関心でよいのか

福井県医師会代議員会議長 吉 村 光 生



今回の参議院選挙では日医副会長の羽生田俊氏が自民党の全国比例6位当選を果たされ、日医の悲願が達成された。これは自民党大勝の流れに乗っての結果か、それとも医療界の結束によるものであろうか。

前回と前々回の参議院選挙では日医から擁立した候補者を当選させることができなかった。日医の会員数は16万人である。会員夫婦の数にも達しない得票数であったが、その後具体的な対策を深く考えて来なかったように思える。私自身恥ずかしながら、以前は従業員にさえ、医師会推薦の候補に投票するよう強くは言えなかった。医師会推薦の候補は医師の味方であり、必ずしも従業員の味方ではないのではという気持ちなどがどこかにあったように思われる。政治や経営に力を注ぐことは、医師として後ろめたいかのように錯覚し、無関心が美德であるという気持ちが無かったとは言えない。

でも今は医系議員に投票するように従業員にも強く言えます。日整会と日臨整会で10年間理事を務めさせていただき、政治の仕組みが少し解ってきました。すなわち医療関係の国会議員しか医療には全く関心を持ちません。反対に他の全ての業界代表の議員は、医療厚生関係の予算を削減し、業界の負担を軽減することだけを目指しています。それにしても参加者が少なく盛り上がりを欠いた決起集会で、会員の政治への関心の薄さが伺われたが、それでも会員一人当たりの得票数をみると、福井県は全国で3位と大健闘であった。

四病院団体協議会を構成する各団体のトップらも、羽生田氏が上位当選を果たしたことに安堵しており、一方で民主党ではあるが大阪選挙区で梅村聡氏が落選したことに関して、「医療現場を理解できる人で、国会議員として働いてもらうべき人材であり、落選は極めて残念だ」とし、「今後も梅村氏を支えていこうと考えている」と述べている。民主党政権の3年半、他の民主党議員が厚労省に対して全く何の力も示せなかった中で、梅村氏が日本の医療の方向を真剣に考

え、行動していることに対して、我々日本臨床整形外科学会（以下JCOAと呼ぶ）は応援してきた。今後も引き続き応援していくはずである。

JCOAは整形外科医政協議会という政治団体を持っている。加入は日本医師連盟のように強制的ではない。会員の加入率は全国的には40%位であるが、福井県では加入率100%であり全国で唯一である。福井県JCOA会員が政治的に特に目を向けている訳ではない。例えば2年7か月前の東日本大震災の際には、JCOAでも寄付を募り、1億3,000万円が集まったが、その際一人当たりの寄付額は福井県が飛び抜けてトップであった。また、学術集会への演題応募や学会参加率もトップであり、誇らしい限りである。

好邪魔多しというか、恥ずかしながら整形外科医が絡んだ不祥事が続いており、大変申し訳なく思っております。過日大々的な反省会を持ち、とことん真剣に話し合い、今後二度とこのような問題を整形外科から起こさないことを強く申し合わせました。

学会にも税金がかかる時代である。税金を徴収する側とされる側で解釈の相違があるように、診療側と行政側では見解に相違があることも事実である。儲けが目的の不正と、患者の為を思って行った行為や最良の治療を目指した結果として不適切になる場合があり得る。

医道審議会医道分科会では医道の観点から処分を行い、考え方として医師法や薬事法違反、交通事犯や医療過誤、猥せつ行為、贈収賄、税法違反等の他、診療報酬の不正請求も対象となり、不正の額の多寡に関わらず処分をするということを、平成24年3月4日の医道審議会医道分科会から厚労大臣に答申している。

正しいと信じた医療を実行し、後はそれが問題とならないことを神に祈るばかりである。